

過去の出題傾向について確認しよう！

北大入試研究[国語]

▶ 出題一覧表

過去 10 年の北海道大学の入学試験で出題された文章の出典を次の表にまとめた。

	一 現代文	二 現代文	三 古文	四 漢文
2016	『わかりあえないことから—コミュニケーション能力とは何か』 平田オリザ	『芸術学事始め』 小林道憲	『枕草子』 清少納言	『書東臯子伝後』 蘇軾
2015	『科学者が人間であること』 中村桂子	『三度目の情報革命と本』 外岡秀俊	『奥義抄』 藤原清輔	『古文真宝後集』
2014	『アート・ヒステリー』 大野左紀子	『世代について』 四方田犬彦	『癩癩談』 上田秋成	『東坡居士艾子雜説』
2013	『日本人の信仰心』 前田英樹	『弦に指がこすれる音』 保坂和志	『紫明抄』 「小鳥付荻枝事」	『呂氏春秋』
2012	『日本語は生きのびるか』 平川祐弘	『サイバーシティは『人を自由にする』か』 若林幹夫	『三野日記』 建部綾足	『答陳商書』 韓愈
2011	『私の日本語雑記』 中井久夫	『豹変する心』の現象学』 大饗広之	『也哉抄』〈序〉 与謝蕪村	『新序』 劉向
2010	『キャラ化するニッポン』 相原博之	『日本語が亡びるとき—英語の世紀の中で』 水村美苗	『しのびね物語』	『謝小娥伝』 李公佐
2009	『事実は『配列』されているか？』 香西秀信	『自由とは何か—監視社会と「個人」の消滅』 大屋雄裕	『閑居友』 慶政	『遊褒禅山記』 王安石
2008	『合理的とはどういうことか』 岡部勉	『哲学、脳を揺さぶる—オートポイエーシスの練習問題』 河本英夫	『源家長日記』 源家長	『論語義疏』 皇侃
2007	『家屋は家族を幸福にするか』 斎藤環	『読む哲学事典』 田島正樹	『宗祇終焉記』 宗長	『韓詩外伝』 韓嬰

▶ 分析と対策

[現代文] 一・二に共通する本文の対策としては、それほど長くない内容を短時間で的確に捉える練習が必要である。記述対策としては、制限字数はよく考えられており、単純に抜き出して組み合わせただけでは上手く収まらないようになっているため、過去問や模擬試験を通じて一つひとつの解答作成にどれくらいの時間を要するのかを把握し、演習を積んでほしい。

[古文] 50～60字にまとめさせる設問があるので、記述問題集を一冊仕上げ、できるだけ多くの過去問に当たっておくこと。古文単語集は400～600語くらいのを仕上げ、古典文法は解釈や説明問題を解く際に必要となってくるので、しっかりと身につけておきたい。日頃から古文に親しみ、作品常識や古文常識をつけておくこと。本文に対する深い洞察力が必要となる場合がある。年度によって難易度の差が激しい。

[漢文] 漢字の読みの問題が四年連続した。書き下しも現代語訳も例年比較的、句法のポイントがはっきりしている問題が多いので、とにかく句法の力、漢字の用法の勉強を早い時期に完成させ、実戦的な過去問の演習に取り組みたい。